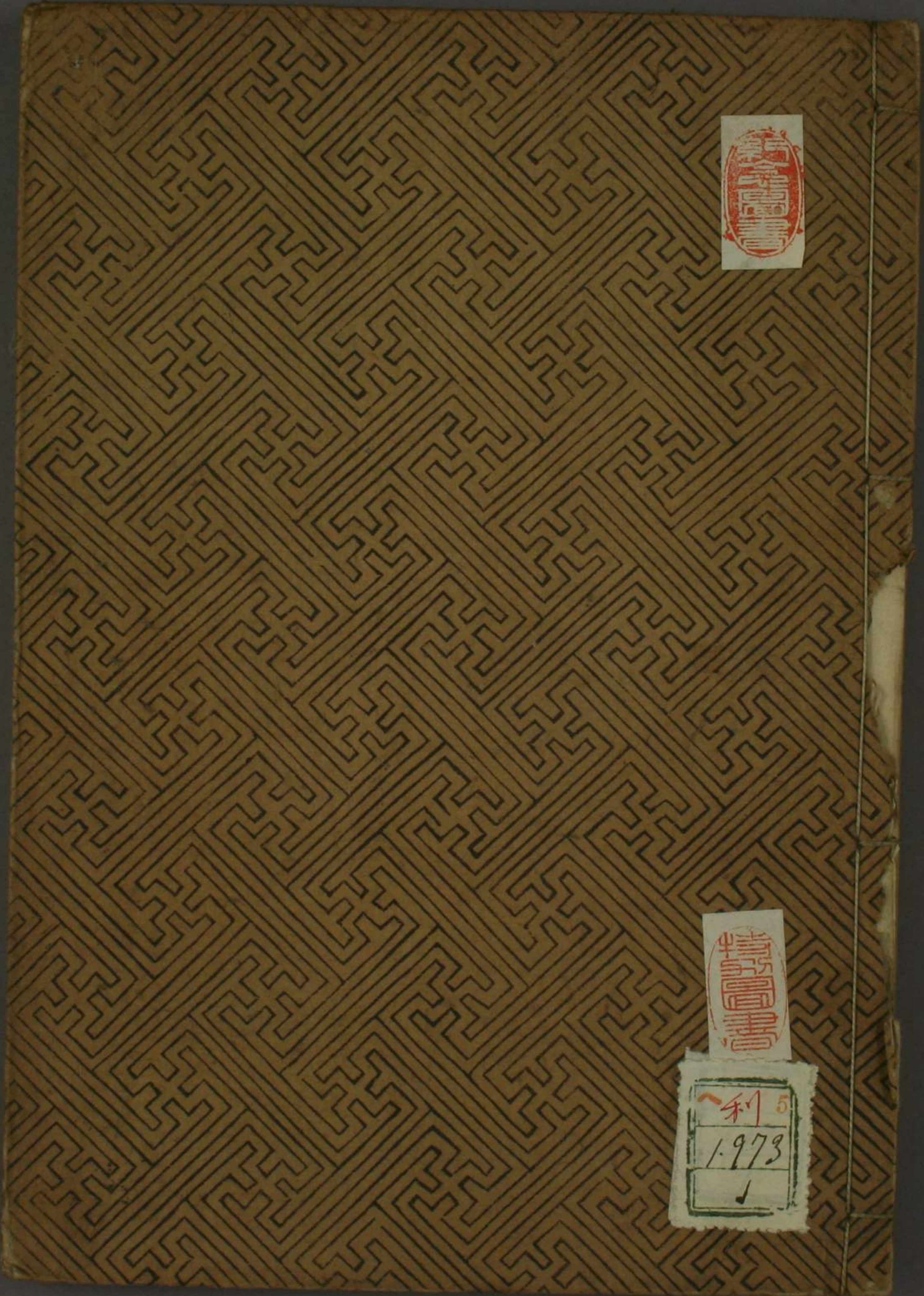


KODAK COLOR CONTROL PATCHES
© The Tiffen Company, 2000
LICENSED PRODUCT

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

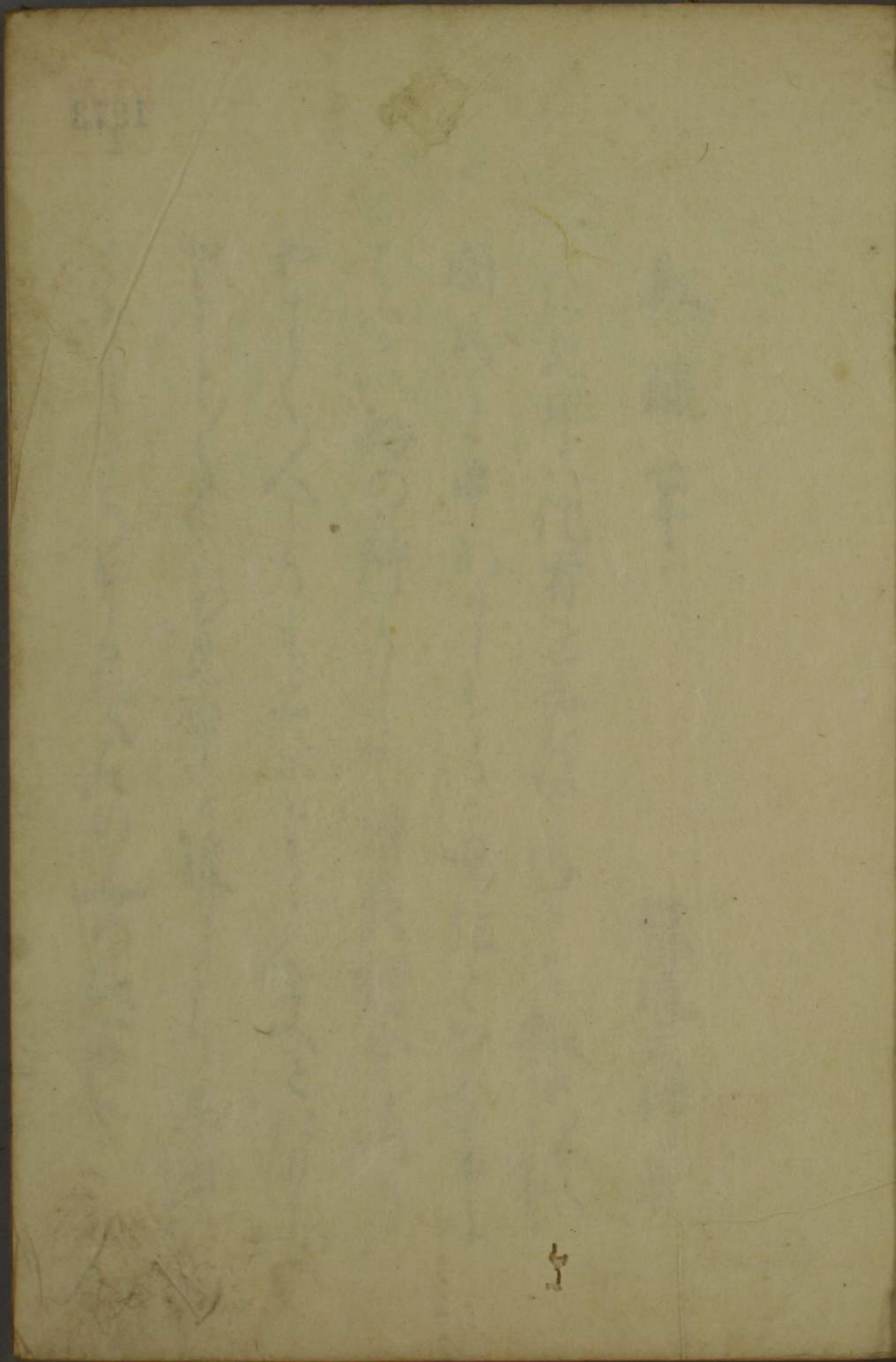


A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



利 5
1.973
↓





1873



1973
1



軌隨筆

權道米伴著



一花見車ハ作者と志取らひとも轍士はく
・ 園ありと仲あしもろり鳴弦とらふ書よ
といひ好の癖とて増長惚ふりつり
やししく人らもよふおとくんまをほりふ
やししくも見車と雜しとら其痛
もろりもろらんのみの趣也

Handwritten text in a cursive script, likely Arabic or Persian, consisting of approximately 10 lines of text.

Handwritten text in a cursive script, likely Arabic or Persian, consisting of approximately 10 lines of text.

み清く新場お笑ふ初うつらと 曉翁
伊勢京やせしはく初鯉 采舟
一舟ハお長可チまきく初鯉 采車
苟すららるるものおいみくく宴く
しんお島しん

みよとてい一盛く青く初鯉 采璣
みよと衝くうしんくおのうお初鯉 采伴
是を録念旅りの眼前しん

きあめく本白うくく初鯉 采丸
見くの下あの一船くうつらと 采平
お夜守ハ初鯉くおのき初鯉 連城
初うつらと初鯉くつし勢い初鯉 東為
忠文民ハ將軍東国下向の時清尔
澄^{ツキ}艦^{ツキ}しんしん周めく杜^ト省^{シヤク}産^クり詩^シく
わりのいしんしん泳くもく初鯉舟のたのうけ
寒まああしんしんおの長^チ舟のひしんゆ
松明く熱くあしんしん初鯉 采字

一日ふニ度ある所も鯉可南 再賀
 鯉身くみんゆく日一松園 菊院
 夕月のころ侍式學魚哉 采山
 今朝なきわ富士もつねく鯉式 采伴
 更への短衣逢くころと舟 秀曉
 鯉登ひきき夫のころと 諫子
 いろはの鯉のころとあはたの海 萬四
 録倉ふる鳥習さころと鯉式 田社

吾妻めく梅尻のころと舟 采徳
 わらわく餅しらま名の鯉の角 采運
 涼くさや鯉のつころと大捨取 万年
 鯉着く入りの所や人ろ辰 扇裡
 周くも鯉と訓くあまびの終アハヒニ
 るまきく是鮑アハヒと乾魚ホシウツラの顔めく串貝
 カしきまわらびとらひ魚斗くころとら
 わりひららわのりめくも魚飯のな

悔の——とさきよきあつていふく異邦の
情シニシと停止シ——とほ性タク語——
及くモウ蒙ム方ム教ム——白日シ——
欽仰キンカウの余——傳授シのら——
末世の機根シわかれの——
是とゆら——と頼シの卿シ作シの
信シと伴シひ——と長シ越シの
ま——眼前シの——信シ

虚妄キヨモウ傳テ來ライの説セツの——の類シのあつす
趣度シの二字シよら——とよの源シ
赤面シ——色シ

一琴シ——と三線サンセン——と俗シの俗シなり
琉球リウキウの玉シ里シ子シ等シ——と樂カクの樂シ
——と甘シの甘シの甘シの甘シの甘シ
——と——と——と——
五雜俎シも三シの三シの三シの三シの三シ

樂人く度ととどき艶かしく一宵のなごり
あはれおかしき心ももよおし
あはれおかしき心ももよおし
あはれおかしき心ももよおし
あはれおかしき心ももよおし
あはれおかしき心ももよおし
あはれおかしき心ももよおし
あはれおかしき心ももよおし
あはれおかしき心ももよおし
あはれおかしき心ももよおし

音ハ性ロイと代キり芥ラフ一呂氏春秋ありと
三味線とかつくもあつと出撰と 米俣
ねじりおかしき心ももよおし 娘の如 老瓦
朝の小便あつとしひんのくが 米徳
しりあつとあつとあつとあつと 我梁
野とあつとあつとあつとあつと 四川
松とあつとあつとあつとあつと 米平

松とあつとあつとあつとあつと 米平

けいけいけい 是実のニテの目と民 兼仲
くらくら 鐘の神々 雀の鳥 兼山
山伏とわかれ けいけい 郭と云 百菴
うれうれ 是れけいけい 時鳥 秀億
りー 糸の眠れるけいけい 保と守 鯉凡
兼平 けいけい けいけい けいけい 子規 小鳴句 露尖
見よけいけい けいけい けいけい けいけい 時鳥 章雅
けいけい けいけい けいけい けいけい けいけい 田且

君うすし 心おきく 兼と照る 兼 杜鵑 兼 兼
馬士唄の曙 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼
みよ字と教と 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼
兼の通ぶ 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼
吐ち 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼
唯啼 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼
兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼
兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼
兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼
兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼

るなるがけ馬ちりきしす 義延

あまの松と鶴の 奴の使わ

久須乃ちのわらわらる 雀るる 木伴

ひよふまのわらわらる 時鳥 巨龍

津の舟の二日やまのわらわらる 曾荒

りしん啼くも海標の樹のしら 百道

歸やしづまのまのわらわらる 阿誰

昌醒りまのまのわらわらる 巴流

いしーの兵百負しーのまのまのわらわらる

めく判る西山家因也具のの風流する

紙のわらわらる

わらわらる

兵俳諧鎗のまのわらわらる 鉄炮のまの

越のまのわらわらる 竹も把の台合

城のまのわらわらる 旗のまの

まのわらわらる 虎のまの 時の声 都合

具取一節負着到小付とてま今凡
流中一節のやう梅の春の實檢
とて一句の働善悪を批判

~~~~~

那な〜八幡太郎の〜山水

貞任〜百負のまゝは家系の梅屋とれうあら

引轉ら〜十二年の深つめあふ

船〜船よ珍よ

夜食〜更ら

鏡〜桶

野入の上〜

〜露を乱

持〜兼房

〜葉と

世信〜花

入麻の〜



け者よの月お捧つて  
おとくふ原田次郎  
お籠りくたつてん。  
一寸白板垣  
枕一条およそ  
おとくふ原田次郎  
お籠りくたつてん。  
一寸白板垣  
枕一条およそ  
おとくふ原田次郎  
お籠りくたつてん。  
一寸白板垣  
枕一条およそ

押の長靴頭巾  
唐紙もふ富山  
おとくふ原田次郎  
お籠りくたつてん。  
一寸白板垣  
枕一条およそ  
おとくふ原田次郎  
お籠りくたつてん。  
一寸白板垣  
枕一条およそ

おとくふ原田次郎  
お籠りくたつてん。  
一寸白板垣  
枕一条およそ



信のふりましいはまさといはるまりあらう

剣のふりましいはまさといはるまりあらう 馬場末

信ふふまのふまのふ

橋の松のふりましいはまさといはるまりあらう

塔のふりましいはまさといはるまりあらう

義貞のあらましいはまさといはるまりあらう

則祐即伴じいのふりましいはまさといはるまりあらう

非身非仏の令師のふ

月のふりましいはまさといはるまりあらう 最明寺

石のふりましいはまさといはるまりあらう 宗盛

川のふりましいはまさといはるまりあらう

葉のふりましいはまさといはるまりあらう 俣野

柴新のふ

のふりましいはまさといはるまりあらう 茂林

切のふりましいはまさといはるまりあらう 狼と助

夕のふりましいはまさといはるまりあらう

跡のふりましいはまさといはるまりあらう 三浦入道

のふりましいはまさといはるまりあらう 法の花

焼のふりましいはまさといはるまりあらう

焼のふりま



時鳥清みの冠者さこのう

海村小を卯さきたしる

夕風松の根の井やさくくゆん

長溪さして津原うらりゆゆ

相場すそをさくくゆれたる儀

其か為者の青砥左衛門

写本誤テ句ヲ  
脱寸句標ノ負  
相違本ノ下

愚墨生五十年可長計五

七十五歳

梅翁判

一八幡殿奥州合戦の特味方軍兵の中か三浦

平太又為通とつゝ者執のまゝらつゝ時つ

くく時のまのわく梅の枝をわさく

とらり是らう花は白さかしの紋くさる

梶原の服の花は白の風情らさく

お梅や田舎のうみさくこ二升 鳴海 鍋盛

是あつと繪の蠟燭や周の梅 茶伴

ひん笑や遠き酒の絶えり 鯉風

三輪をよとて連く宇橋見たり 柳尾

美の時とわらわさるるもあうめのむ 潭島

何く万里をたのむもあまのむすし 采謡

風鳥おとす風さるる柳可南 我梁

こころの結んむさるる柳は 紅丸

おまわりの音<sup>クケ</sup>もあうて柳は 遊海

ま柳や女ころろと祈らう切 茶山

いろくもあうるる柳の南 茶策

ゆるりたる柳の枝のうら世に 山子

人さくね風とあまの姿うら 青霞

時の色早く深なる柳可奈 尾州鳴海 鉄変

空はくもくもゆるる柳を何果するも 白馬

かましくもあうる柳葉の影 白馬

の白馬さくくもあうる柳 尾州

くもあうる柳さくく白馬の 白馬

さあ 尾州

河

青柳

大汐と嘗め斗の柳

いさひけお年

と一お若葉

駕りりく供との

道回い昔い教り

山獨信也昔

三

由林

水路

栖窟

国寄 浙江

牙宇

輕羅

土の味 采璘

伊勢武者のりりる見せらる様氏 百菴

宿毒のけふふ及らる様卯 鳴海 和菊

秋冬のものつゝ腫みおとらるるは

薬力針信の功おとらるるは復お

けりしは昔ぬ是とりくの備あり

思ひ

まや千代あつかりしをね儀別松凡鳥

ゆりり柳お履新の色 春采

享保え丈の既らるる

廿

あらしのつらなるはしきる巖が 米津

菜のむらさき捨野 恒の介 佐原 百道

大根の心や原黄のむらさき 清泉

龜戸村

所膳と六景をみゆき 野大根 米仲

けしきをみゆきの口はくく 文章

岸の芽や矢敷のむらさき 再賀

山吹や又字わらわら 何のまじ 米二

山吹や二及原風をふ下流まで 葉也

子とつねく牛のわらわら 莖原 我又

恙のむらさき山小寒をみ所が 米礎

洗濯の川をみゆき 山 兼院

おのの中ふわらふ仙あり 栲山 府月

旭のむらさき 隈をみ 東為

やまの毛繒ゆき 栲 再機

じり 繪の熊谷をみ 櫻狩 吉田 魚川



有漏無漏の終の具かの終りく  
米齋  
ワシレハハの字も長し  
露牙  
藤棚や柱もとく  
振水  
郡山ハ夏ともしく

食とハ用子月ハ素堂若葉ハ  
米徳  
やうの清黄ハ  
吉門  
ふらぬ樹の心ハ  
我又  
園まわく牛もく  
吞江

四阿ハ  
振水  
岡えの鏡ハ惜し  
牡丹好  
平砂  
千金とつ  
牡丹好  
五絃  
獅子舞の  
牡丹ハ  
三字  
夷くや  
門の車ハ  
牡丹  
由林  
侘まらぬ  
長者の  
與一  
陰  
観ハ  
糸屋  
斤柱  
中和  
つのも  
牡丹の  
葉ハ  
つり  
秀億

卯元の垣根と雪の夜を道 千里  
 梅賣や一把の紫穂のわらひ 玉蛾  
 ふりく雪のこゝろ 小梅愛 文章  
 河青や青のあや 兼唯以前 扇約  
 ともさるらん心ゆくを針のあ 兼璘  
 ちる薬や縁の地蒸の干りつゝ 兼廷  
 至眠るまよふ村をむさの風 兼旭  
 折きく葉も風情とらるや社美 柳尾

紫陽花に泡より軽し 兼平 兼丈  
 駿河路やうもろの初花子 兼也  
 大なる香をとらふしと初花子 都十  
 わらさおの仕着色とらふや 兼草 物 友以  
 ちるぬ火のりんとらふ半はるる百合 國大  
 鬼百合の具まめ人ともうらや 社藏  
 澄びくく植くゆの田の獨火 兼成  
 花しきくくし 跡や花の花 時雞

縹のもしや天の橋よりあくと種 如鷹

奥福禅林——わさふ

牛嶋の牛見つけし木下周 由林

甘香隔壁間

花のうらなふくしきせらるる雲草化 萬立

白露のふまはいされる草なりし 扇裏

あはらうくそくきく音たなはら 五絃

かくらた薄のよめくすもせむ 采字

聖海上人のわらひらひハ

いとく目黒の印を姫押 ツミナハシ 茶礎

姫がらみのくく痛くか

おふらんくくくさるころ

祈禱 つらつめい女の奇

露きくしてんふ美日わたるふ 春来

朝魚たぐいめぬ垣の表衣 曉翁

あさうがやの戸紫の花の泡 茶山

朝顔やわら坂まじりの旅道り 機夕  
暮れたころの山崎をくもる 蔓 三字

撰待

秋すまゝの茶碗や折取不捨 存義  
満る時あはれ見すの草の家 亀成  
凡の道蕉や志んころの橋り卯 兼二  
薄よりたゞしな声心むし 吟糸  
玉川へささるる一葉が 吐月

遠方の遠やまじり編の 易豹  
梧桐葉落く獨坐よりの 由林  
福舟のりて我れい坊とく 再賀  
あはれや誰り卒の子の洗く 兼斎  
春よりつとむる長しき花の 由雅  
葉をゆきか子まねるる鳥の 兼伴  
杖つりしむのまのまの徳 和貞  
まじりしむの樹をう奥るる 兼貞 玉城

教の氣見くくや止むじ土のり 兼純

夢化さう白露に紅粉ニ三千 秀億

はくは他くぬさうの小る事 兼伴

種もや、休寒と冬瓜汁 許道

秋尔や夜もことつけら風の音 輕羅

以角力や陸奥とわ羽の花紅糸 清泉

新書も夜ははのりくさ小芝原 沆水

谷信ふ下部の音ーりさら符 百義

くはと深さくくは葉の卯 黙舟

麻鳴卓朝酒ーく山店う角 載二

醉鹿紅葉外 牛吞

引の術さの術お葉しーく世のさう 青洲

嵩かーかろや目白梅りよ茶 中和

大根くおのわさくことさうー水 兼隣

落葉さーくはく清くぬさう 曉翁

二股ーくわくくわく大根川 時雞

吐月  
 大寺の道でた落葉の卯  
 十曉  
 有仙と腰えしの別を友  
 采丈  
 雨まらぬ物あふりまあなうら  
 如鷹  
 ぬ仙かうの菴の  
 都十  
 風や實の心  
 子岡  
 う仙のまかり  
 我又  
 葉のたのまき  
 米幸

潭島  
 松林原  
 本の小障子わらうま  
 梢の角  
 米車

有感

唐島の轉る日  
 寒牡丹  
 梅郊  
 おとさうらわりの梅や冬  
 米蕉  
 一ぼりくまのいぬれる  
 色の須  
 まなけの元祿の  
 米  
 ぬいさうらわりの梅や冬  
 米車



ゆるゆると又昭明太子の本屏如意を  
うらゆると杖めく喜捨の執り空業心  
字のちまゝとい異しとも

一じーらう大磯の化地藏とらみく旅ゆく  
くろ目色く路のうらうらふるほゆーのふ  
ちまゝとい異しとも今堂がと巖

おろー標ハナウー必代地蔵ミカハリーしーらめ  
くの危難キナニとよーしーいもいもいもいも

ともしるんがまゝ其出入くろくへ  
一春豪上シユンカウ人いらーの浦めく路と賞とら  
海ふたすけ入るれくゆーま功德はく

りー思ひくゆーのうたのまみ給めく  
集チクセウしーれくこいふれさるの血を流

て出離シユツリの期とらけくあー得脱トクタクすく  
しーほろとよーいふまわんれとゆか  
もくしーいふまゝの血とらけく



とく悲しけりしむしお離れ知るふねのこゝ  
とく人々蛤のこゝろをまわす

一俳諧りし楊墨小りごとく列子莊子不起り

異端といひあへり守韓相の碧玉カンミヤウヘキキヨク

牡丹八岐の大地の槽サカフ子釋氏の血の也

く作意の至れりし建人の凡態谷直實

とくと直光と争論ありて道世

東鑑の趣の真るなりきむし教

羨少年と討く世とい捨しといさう若道の

りけりといふらばきさむ面白

一寅正年中將軍義政公春日伊弉系の時御能

十三番被行親世寶性金剛竹田是をつし

出雲十柄イウモトツカフタミノウラ浦嶋鴨次郎ウラシマ皇宮ホミノミヤりし今

きけいけりしむしむし

一火雨の大雨の書ヒサメ日本紀大雨

くくくくくくくくくくくくくくくくくく

ついでに訓も火かぬるも(氷雨とついでに)  
りから各別し

去年(いま)も花やうららかに  
連城

春雨あつちり定まじつら  
章雅

あつちりつらも花うら  
其道

年足袋ふけうらむら  
黙翁

まらぬのやうも蝶い  
紀震

連想の胡蝶あつちり  
米車

夕日雨やしの清き松捨原  
具道

さきまねや竹の子供も乱髪  
甘棠

さくらあはれりる煙や  
米伴

さくらあはれ今朝の  
米轍

綿入もあつちり斗や  
蘭風

あつちりあつちり今年竹  
碑明

あつちりあつちりあつちり  
輕羅

あつちりあつちりあつちり  
楚纓





さよふとてさよふとてさよふとてさよふとて  
まある時あつ酒の女さうして行時と  
鼻くわきあひ一日の業事あついの  
石あつら樹あつら花卓と女と  
ふよとてあぢかりと土と鋤とあつと  
くよあ念ささる時あつらと比鉄と抛ナケウ  
ち帯と捨く例のいさなとつらる海  
詩と賦とあつた詩といはせとあつらつと

し和漢一般の大馬無りのるる  
いさつとあつらつと

涼——と上様も起くも九裸 春采

一春ま所ちつあひいさつとあつらつと  
くつとあつらつとあつらつとあつらつと  
まのいさつとあつらつとあつらつとあつらつと  
日ましや我婦とあつらつとあつらつとあつらつと  
老ぬとつらつとあつらつとあつらつとあつらつと

かゝるの事なりと云ふ事なりと云ふ事なり  
一千本釋迦念佛の事はこれなり  
如輪上人の事はこれなりと云ふ事なり  
寛仁年中定貴上人オニランミヤウカウ音オニラン乱名号大念佛の  
始祖なり一旦破滅の事二百余年と云ふ  
如輪上人の事はこれなりと云ふ事なり  
ごらゝめども當時佛諸の法太り  
しと云ふ事なり

一山門サンモンの觀山と云ふ所の寺院あり  
三門サンと書くは釋氏要覽云寺院は只一門  
あり呼ぶは三門と云ふは佛地論  
云三解脱門ケタツワモンシ為所入處と云ふ事なり  
空門を  
相門を伴門と云ふの意なり

涅槃會

釈迦牟尼の餘の蹟 春來

外産編

梅のつぼみ新梅のつぼみ梅花 永芳

年禮小冊のつぼみ彼名うけ 永機

画賛

柳の鞠西のつぼみ 永伴

灌仏の法の花書のつぼみ 朱明

灌佛のつぼみつぼみのつぼみ 礫島

つぼみつぼみつぼみのつぼみ 永伴

録念紀行 長谷のつぼみ

つぼみやつぼみのつぼみ 永舟

寮坊のつぼみのつぼみのつぼみ 永伴

夏つぼみ多奇山

つぼみのつぼみ五百羅漢のつぼみ 青徳

取つぼみのつぼみつぼみのつぼみ 永審

つぼみのつぼみつぼみのつぼみ 祇坐

つぼみのつぼみつぼみのつぼみ 永機

辨度ら借状しり六馬一疋箱一端

わきいさ 少令 粮米の類

年一ふう馬もうくの世魂まうり 来伴

秋もわく月もあつちやう 興福寺 銭中

の甲うくこ新と食とじ

まうれあや二百十日の節もくま 旨原

魚小照る葦酒門内のりもらう邦 正川

虚舟僧の足跡もみかたを氣う旬 章雅

古寺こらうく思ひく 落葉氏 五絃

達磨會わのねあじ馬の声 春来

まをんたの圓相の餅くひ 子莫

まの屋もあやの葉は枯れし 淡染

世の中さうらうまの寒く邦 因高 湘江

頭巾く角、こわくじ十徳氏 鳴海 和菊

じく時多経書堂と舎う邦 存義

墨保やせみく紙子の下紅葉 田社









一腰の影さ小坊さうりの回り 玉娥

先一重及ふら口ろうまふくや 鳴海蝶羅

うけうらまのまのぼりし一思の松 六器

み館よめるし一町の日記 米旭

静くく思ふるまの松の籠り 吳雪

日本のきく河津院の夜とり

めくく松真しあふりし

紅毛の夜と夜 雀深 米洞

虹吹くもふゆのくれ 連舟 三字

潮煮の眼 一葉の松 羽 沾路

お代りの契と出 一舟の家 凡 赤子

細くさす下馬の目 一舟の裕 四川

うし 一舟の裕 湖海

魚けの席 一舟の南 普子

喰ふ 一舟の田 植 塵匣

家 一舟の中 衆賀



草白ふたんと扇の盛るや 山子

白くつゝの雲はくくくくくくくくくくく 青洲

倚子貴うくくくくくくくくくくく 采葉

初秋のねいひくくくくくくくくくく 采鳳

くくくくくくくくくくくくくくく 子英

鬼緩子の扇やきくくくくくくく 采布

躍ちやう人も穂あもくくくくく 萬立

くくくくくくくくくくくくくくく 采伴

人同の描く心る處と躍うや 鯉風

誰の娘をら妹をくくくくくくく 枇杷

雲霞や奴もくくくくくくくくく 慶子

躍く 鼓を留柳の宵のくくく 如鷹

投くくくくくくくくくくくくく 田且

くくくくくくくくくくくくくくく 圖大

くくくくくくくくくくくくくくく 采伴

草の戸とあくく 都の角力や 丹鳳

支離とつねなるよけは内相撰九曲我  
 南山の響けわさむる赤子  
 およむるわねるもけなぐも無嶋立西山魚川  
 百姓のりく度るも角力とる 采女  
 細ふの火もほくわくは火成 庭臺  
 琴の音の導くもわくも 花火賣 衆賢  
 ゆくも徳もあまほく人う邦 澤島  
 こゝ徳もいふ徳もわくも 我又

衣ナシの度くは小もる意 青霞  
 丁向の度くは合く破り邦 采儀

あいのこ衣月かきうり  
 晴とたなるやうはさあもあも 瓢  
 露とくは旭のさき見もやう 万輪  
 取わくは着の軽きやうは風 許道  
 底くは落るもわくはあまの風 湖十  
 石やわくは伊良のこもりの秋の声 義彦

古輪の一夜おらつく秋林——鳥皮

秋の夜やこころのまのじりい玉 西月

秋の夜やこころのまのじりい玉 秀曉

秋の夜やこころのまのじりい玉 櫻川

秋の夜やこころのまのじりい玉 菊丸

秋の夜やこころのまのじりい玉 連城

秋の夜やこころのまのじりい玉 超雪

秋の夜やこころのまのじりい玉 社胤

けんとくしんしんしん宝の市 米轍

初冬もよのふれとくしんしん 正川

口切やんしんしん 湖十

口切やんしんしん 玉城

くしんしんしんしん 超雪

十月やんしんしん 鉄交

十月の甲のちんしん 鍋盛

薄市の鈴もさくしん 庭堂

全五

全五



〰〰〰の烟おゆ〰〰〰夫溝 秀億  
 日光あつゝる晴わつゝるひさ清 柳尾  
 日の脚の人の動やうも日 起來  
 先程く〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰 采策  
 冬花眼〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰 采鳳  
 老〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰 錢中  
 〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰 采運  
 冬〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰 呼童

卜〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰 連城  
 冬〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰 鯉風  
 〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰 我梁  
 入相や〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰 湖海  
 六〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰 秀億  
 四〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰 梁宜  
 牡丹〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰 采布  
 〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰 采二

金

カキ

百年かゝる〜〜の頭巾ハ 采岑

〜〜れお今年もか〜〜古大桶 水路

鐘〜〜く時計も〜〜る人ハ 裏負

四つあけ角か〜〜る角道頭巾 西月

乾けおか〜〜あ〜〜る親子ハ 許道

石針よ寒〜〜と〜〜心海荒角 老瓦

か〜〜けふも〜〜あ〜〜る〜〜るハ 秀曉

あ〜〜く〜〜鐘掛幅倉の〜〜る哉 由林

〜〜〜〜の津よ〜〜く夜の寒〜〜ハ 輕四維

道同〜〜の腰〜〜教る〜〜るハ 道院

懸動お倉ま〜〜る〜〜るハ 畔水

鐘の房〜〜のれお白〜〜今朝の鳴海 蝶羅

風や星と〜〜の〜〜か〜〜とハ 檜山 樓川

お別の坂と〜〜の〜〜〜〜紙子ハ 百道

あ〜〜も〜〜の〜〜の〜〜の紙子ハ 采儀

北〜〜の枝お白〜〜の〜〜氷柱哉 赤子

年々雪の蹤——ゆるる霞の如  
葦雨

林場とくまか——

のりあいの枯井からなる霜 珠来

白雲の影に人なればとて 臺菊

髪置小と食の重いと食う如 采伴

貝銘

のり具のい寄る雪の年——首の如くも  
はのてらるるしし所の貝を即——いふ也と

視るのりしるし我とら都のいんあふ

あ——いんあふのいんあふのいんあふ

何——いんあふのいんあふのいんあふ

いんあふのいんあふのいんあふのいんあふ

あふのいんあふのいんあふのいんあふ

のりいんあふのいんあふのいんあふ

り面いんあふのいんあふのいんあふ

これいんあふのいんあふのいんあふ

くわたりまひしとわねおまきし  
られく捲り兼のたのぼり月と

~~~~~

茶子春集

~~~~~



